

春雁

王

恭

春風一夜 衡陽に到る

楚水燕山 万里長し

怪む莫かれ 春来れば 便ち歸去るも

江南好 雖も是れ 他郷

【作者】 王恭（？ - 三九八年）明代の人。東晋の武將・政治家。字は安中。皆山樵者と自ら号す。閩県（現・福建省）の人。

六十余歳のとき、『永樂大典』を修めるのに参与する。父は王蘊。子は王曇亨と王愔之ら。東晋の孝武帝の皇后王法慧の兄であり、東晋皇室の外戚であった。このため孝武帝の時代に著作郎・前將軍・鎮北將軍・兗青二州刺史など要職に任命され、三八八年に謝玄が没した後には北府軍の総帥となり、京口に鎮した。

【語釈】 *春雁：春になって北方に帰る帰雁のこと。 *衡陽：地名で雁の南下する先の地とされたところ *楚水燕山：南方の

川（回雁峰の北側の湘江）と北方の（古巢の）山 *長し：距離が遠い *怪しむ莫れ：を疑わない *便ち：南方のち：すぐに *江南：長江下流の南の地方で、蘇州、無錫、杭州といった、文化的に成熟し、経済的に発達した一帯を指す

【通釈】 春風が、ある夜、雁の越冬地である衡陽に辿り着いた。南方の川（回雁峰の北側の湘江）と北方（古巢）の山とは、非常に距離が遠い。それにもかかわらず、春が来れば、雁はすぐに、帰っていくのを不思議に思わないでほしい。というのは、長江下流の江南は、すばらしいというものの、異郷である（のだから）。